

さかい がわ
境 川 遺 跡

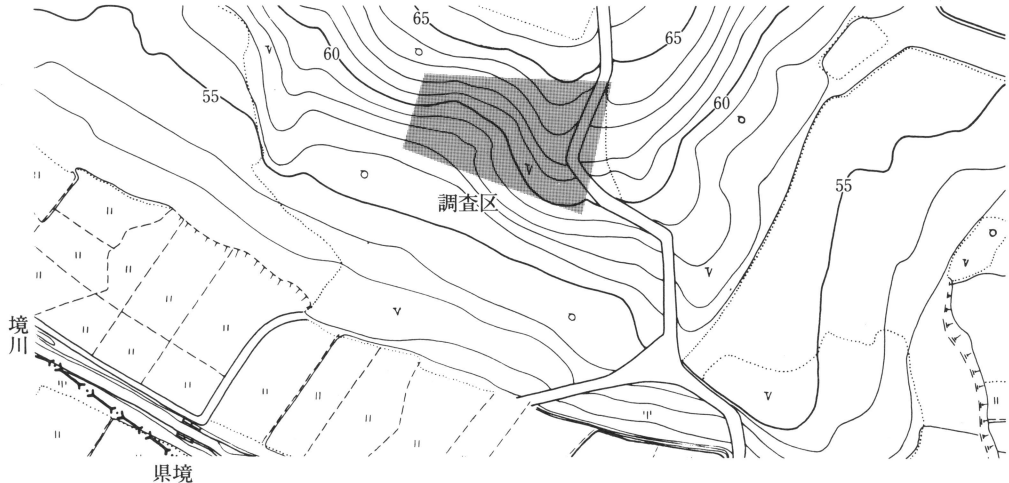
調査にいたる経緯

境川遺跡は、豊橋市東細谷町境川に所在し、地形的には三河と遠江の境を流れる境川によって形成された河岸段丘の西側段丘崖に位置している。境川遺跡のある豊橋市東部から静岡県湖西市にかけての地域には、古墳時代後期から鎌倉時代の一大窯業生産地である湖西古窯跡群がひろがっている。この地に国道1号線のバイパス（潮見バイパス）が建設されることになり、その事前調査として600㎡の発掘調査を行った。

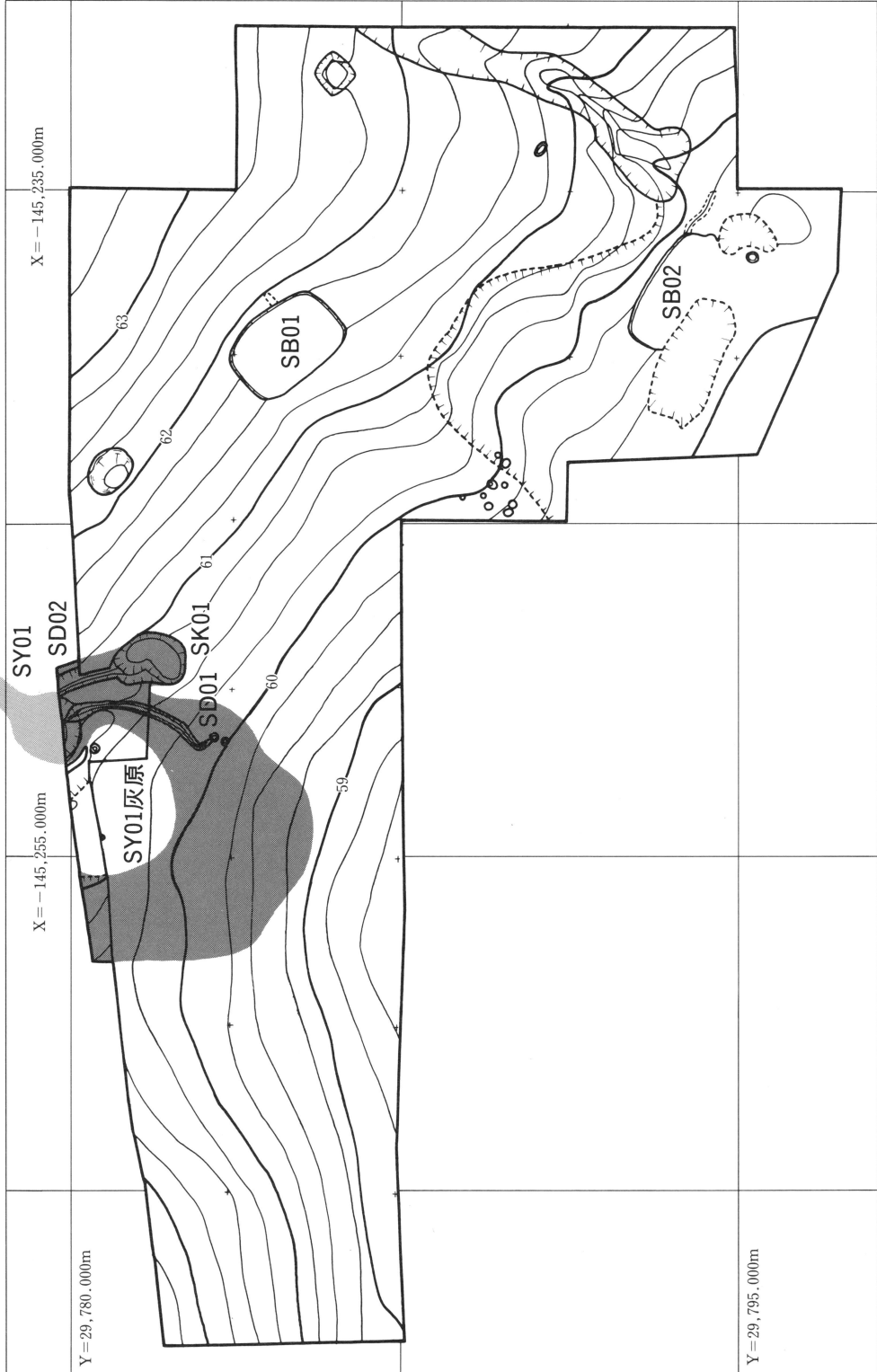
調査の概要

調査の結果、7世紀後半から8世紀前半にかけての窯跡とそれに付属する竪穴住居跡を検出した。窯跡（SY01）は、窯体が調査区外に位置するために灰原部分のみ発掘を行った。そして、窯の前庭部で焚口からのびる2条の排水溝（SD01・02）とそれにつながる土坑（SK01）が見つかった。2条の排水溝は重複して掘削されており、複数の窯が存在する可能性が高い。灰層の堆積は最も厚いところで25cm程度と薄く、遺物の量もコンテナに5箱ときわめて少ないが、時期幅はほぼ1世紀近くにおよんでいる。

竪穴住居跡は2棟あり、いずれも規模は3.5m×2.5m程度ときわめて小型で柱穴をもたない構造である。うち1棟（SB01）は7世紀末から8世紀前半に属し、北側に煙道が外にのびるタイプのカマドを有する。床面および埋土中から100点以上の須恵器片が出土している。もう1棟の住居跡（SB02）は8世紀中葉から後半に属し、SY01とは異なる窯跡に付属する可能性が高い。ここからは須恵器の製作に用いるための粘土塊が出土している。（樋上 昇）



第1図 調査区位置図（1：2,000）



第2図 遺構配置図 (1:200)